平成３０年度第３回宇都宮市地産地消推進会議　会議録	
日　時	平成３０年１１月１９日（月）　午前１０時３０分～正午
場　所	市役所３階　議会棟第２委員会室
出席者	（委　員）志賀会長，福田委員，篠﨑委員，小林（一）委員，金枝委員， 山口委員，田野邉委員，田村委員，増渕委員，佐藤委員， 星野委員，市川委員，若林委員，小林（拓）委員，根本委員 （15 名） （事務局）大島課長，大家補佐，大島係長，石川総括，河野主任主事， 手塚主任主事，田﨑主事，杉山係長，坪井主任（9 名） （オブザーバー）JA 福田次長，河内農業振興事務所中里部長補佐 （2 名）
欠席者	石原委員，上野委員，塩井委員，店橋委員，松本委員
公開・非公開の別	公開
傍聴者	０人
内　　容	
	次第１　開会　午前１０時３０分（進行：大島係長） （会議録署名人を山口委員，佐藤委員とすることで決定）
事務局（杉山）	次第２　報告事項 ・「第２次宇都宮市食料・農業・農本基本計画」の見直しについて 【事務局説明】
事務局（石川）	次第３　議事 ・「第２次宇都宮市地産地消推進計画」の見直しについて 【事務局説明】
福田委員	・日本の農業をどうしていくか，大変な問題である。 ・国内の食料自給率をどう上げていくのか。それを末端まで繋いでいくべきである。 ・安全で安心な農産物を地元で手に入れやすくする。これはとても合理的で，健康的である。 ・国内の問題と宇都宮市の問題，つらぬかれている印象がない。 ・ブランド化，生産性を上げる等の中，無農薬への視点の打ち出しが弱い。
志賀会長	・稼げる農業等展望を説明していただいたが，これは市民の需要にマッチしているのかを考えるべきであると思う。 ・また，市内の食料自給率を上げるべきだと思う。 ・安全安心な農産物が大切で，これもブランド化の一つだと思う。
篠﨑委員	・説明を聞いて，大規模化したときに，兼業農家がそこで働くイメージというふうに取った。 ・兼業農家はジリ貧であり，農地を手放せない現状もある。また，農作業を委

	託したくても，受けきれていない困った現状もある。具体的に仕組みを提示していくべき。 ・価格が気になるといった市民アンケートもあるようだが，株式会社化する等大規模化して行けば，価格が下げられるのではないか。 ・農業を考えていく上で，ＮＣＣとの整合性や都市農業についても考えていくべき。 ・都市農業については，税金の問題の解決も必要。
志賀会長	・従事者が減る中での大規模化への道筋は大切。 ・出荷体制の簡易化等による販路拡大のシステムが必要ではないか。 ・地域別の現状を見ると，定年帰農が多い地域もある。そういう人達に関わってもらう方法もあると思う。大規模化は重要であると思うが，若い人は大規模化に関わっていき，高齢者は直売所等で少量でめずらしい農産物を出荷してもらう，そういった方法もあると思う。
篠﨑委員	・大規模化してそこに就職する方が，初心者や高齢者が入りやすい。 ・障がい者雇用についても，例えばイチゴを摘む等できることもあると思う。
増渕委員	・未来の農業について，聞いていて素晴らしいと思う。 ・兼業農家は，自分の土地を手離したくなくて，仕方なく農産物を作っている部分もあり，素人だからよい農産物がつくれない。それらは出回ることなく捨てられてしまう。食料自給率が低い中では，これらが捨てらることなく解決できる仕組みが必要だと思う。
志賀会長	・受託されない土地での作物の作られ方や技術の向上のされ方は，難しい課題である。
小林(拓)委員	・シンプルに考えても良いと思う。農家が作ったものを市民が食べる。原点に返るべき。 ・「消費者が欲しい農産物をいつも身近に」といっても，欲しいものを見つけにくい。消費者といっても，誰に聞くのかが大切である。 ・おいしくて安全安心な農産物といっても，それはもう当たり前のことだと思う。いつまでやっていても仕方ない。
志賀会長	・安全安心な農産物が当たり前と思っている人は，直売所に行きやすいと思う。安いものを求める人は生産履歴の有無を意識していないと思うが，一方で例えば外国で農薬事故等何かあると嫌だなと思うはずである。
山口委員	・ＪＡの直売所に出荷しているが，生産履歴の提出は原則になっているので，どうして生産履歴の率が低いのかが分からない。初心者でもできる簡単な生産履歴の用紙を市の方で用意してあげるべき。
佐藤委員	・直売所によって生産履歴の状況は違う。 ・消費者は，生産者が生産履歴に取り組んでいるかどうか分からない。

	・消費者は安全安心が当たり前だと思っているが，蓋を開けてみるとそうでもない場合もある。 ・宇都宮市で地産地消ができる理由は，都市もあり農地もあるからである。 ・地産地消につなげるため，地元の農産物が地元のスーパーへもっと流れることを期待する。 ・市からは生産履歴の指導をお願いしたい。
山口委員	・学校給食等で地産地消に取り組めば，食料自給率が上がる。 ・５年後，１０年度を見据えていかに小さいうちに，地産地消を根付かせるか。 ・保育園幼稚園の子どもたちに，農業体験をさせる他，イラストを交えて絵本のようなものを作り，地産地消のススメを植え付けていくとよいと思う。
志賀会長	・先日の農業振興対策審議会で上がった意見はどのようなものか。
石川	・地産地消の部分については， 「消費者にも価格だけを求めるのではなく，生産者の手間や思いを知ってもらう取り組みが必要」 「収穫体験等を通じて，農産物の大切さや農家の思いを感じながら，購入できる場の機会の拡充が必要」等でした。
福田委員	・子どもは，直接体験することにうれしさを感じる。 ・学校給食においては，地元の農家と直にやり取りできるシステムを作る等が必要である。市と学校と，上手く連携して欲しい。 ・生産者の紹介をしながら給食が食べられるのが理想。 ・直売所については，直売所そのものが足らないと感じる。直売所を増やす取り組みを入れてほしい。清原地区の生産者は，直売所が近くにないため高根沢や芳賀に出荷してしまう。
志賀会長	・これらの意見をもとに，このような方向性でよろしいか。
委員	（異議なし）
事務局（石川）	**次第４　その他** ・飲食店フェアの案内 ・今後のスケジュールについて
金枝委員	・父と子のクッキングに食育活動として参加した。今はどこの保育園幼稚園でもサツマイモ等が作られており，また４歳児が包丁を使えることにもびっくりした。保育園や学校等においても地産地消に触れられている現状に，希望を持っている。 **次第５　閉会**
	書記：事務局（農林生産流通課農産物マーケティンググループ河野・田﨑）

会議録について署名いたします。

平成３０年１１月２９日

会議録署名人　　山口　和子　　㊞

会議録署名人　　佐藤　要　　㊞